

ラッキョウ (ユリ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
			収穫		植えつけ						

ラッキョウ漬けにされることがほとんどですが、薬味として生食されることもあり、独特の食味は食欲を増進させます。どんな畑でも、あまり手をかけずに作れる野菜ですが、栽培期間が長いので、家庭菜園では作付け計画をしっかりと立てておきます。

品種

品種としては、次のようなものがありますが、品種を選ぶというのではなく、その地方で作られているタネ球を購入したほうがよいでしょう。

玉ラッキョウ（分球が多く、小球で、1年掘り）

ラクダ（草勢がよく、多収。大玉）

八つ房（玉ラッキョウとラクダの中間型）

栽培ポイント

ラッキョウには、1年掘りと2年掘りとがあります。小球をたくさん収穫したいときは、1年目で収穫せずにそのまま置いて、翌年収穫します。これを2年掘りと言います。土質は特に選ばませんが砂土のようなやせ地に連作することによって、肉質のしまった、きめのこまかい、肌つやのよい球ができます。肥沃な畑ですと、大玉で多収となります。また、浅植えすると分球が多く、球が小型になり、深植えすると分球が少なく、球が大型になります。浅植えの場合は、球が緑色になるのを防ぐために、土寄せがたいせつです。

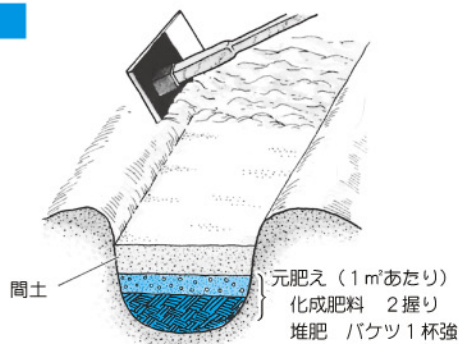
生育適温は20～33度で、分球、発芽は長日下で行われ、5月と9～10月に盛んです。低温には比較的強いほうで、植えつけ後、秋に発芽して冬を越します。高温には弱いようで、6月ごろに葉が枯れて休眠します。球が肥大するのは5～6月で、このころ、最も吸肥力が旺盛になります。

栄養

栄養的には特に重要な成分は含んでいませんが、ネギ類に共通なアリル化合物があるため、ビタミンBの吸収をよくする性質があります。

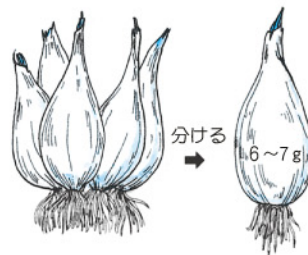
1 畝作り

植えつけの2週間ぐらい前に、1㎡あたり6握りの苦土石灰を畑にまいて、よく耕しておく。1週間後に元肥を施して、畝を作る。



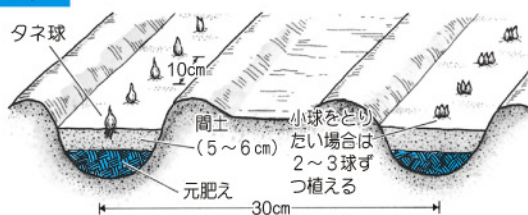
2 タネ球

分球している球を1個ずつに分け、大きなものをタネ球にする。1個6～7gのものがよい。



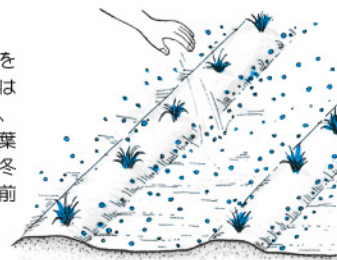
3 植えつけ

間土の上にタネ球を並べ、5～6cm覆土する。
株間10cmとする。



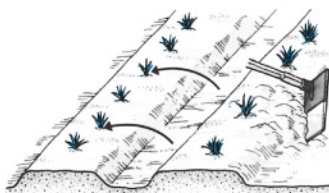
4 追肥

小粒のラッキョウを作るためには、追肥はほとんど必要ないが、育ちが悪いときや、葉色が悪いときだけ、冬越し前と春の芽出し前に施す。



5 土寄せ

追肥のあと、畝間を軽く耕して、株元に土寄せする。冬は葉がほとんど枯れてしまったように見えても根部はしっかりしているので心配はないが、雑草に対して弱いので、入念な除草がたいせつ。



6 収穫

春になると葉が元気に生育する。6月ごろ、葉がほとんど枯れたら、球を傷つけないように、掘り上げる。



主な病害虫
◆病気 白色疫病
◆害虫 ネタニ